

来週の「売り物」記事はこれ



2011年12月9日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

シリーズインタビュー「時代を駆ける」

大河ドラマの時代考証、小和田哲男さん

13日（火）から2週・9回

今年の「江（ごう）～姫たちの戦国～」で、NHK大河ドラマ4作目の時代考証を務めた歴史学者の小和田（おわだ）哲男さん（67）＝写真。信長、秀吉、家康といった勝者よりも、彼らに敗れたり、彼らを支えた人々や戦国の世に生きた女性たちの研究に重点を置き、新しい視点を提示してくれます。

09年に静岡大学を退職した後は、全国を飛び回って講演会を開いたり、城の遺構の保存・復元活動にも積極的に関わっています。

お城やチャンバラ映画に夢中だった子ども時代の思い出や、大河ドラマの裏話、歴史ブームに寄せる思いなどを語ってもらいます。



粉ミルクの放射能汚染、大丈夫？

くらしナビA面 14日（水）



食品大手、明治の粉ミルク「明治ステップ」から放射性セシウムが検出され、乳児を抱えるお母さん方の不安は高まっています。粉ミルクを作る国内メーカー6社に、放射性物質の検査態勢や検査結果、対応策などを聞きました。現状をわかりやすくお伝えします。

目の不自由な人に不便な商品 くらしナビC面 13日（火）

共用品推進機構による目の不自由な人が不便に思う商品の調査では、テレビなどのリモコンが1位でした。高機能化して使いにくいとのこと。レトルト食品などのパッケージも触るだけでは味が分からないそうです。目の不自由な人と商品について考えてみました。



こうのとりに追って・インタビュー4 くらしナビA面 18日（日）

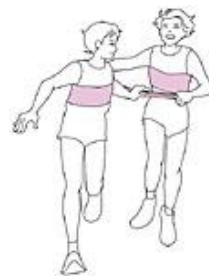


「こうのとりに追って」の4回目のインタビューは、昨年8月に結婚した元タレントの中西（旧姓・山本）モナさんです。不妊治療の体験や治療のために夫婦関係が難しくなった経験などを語ってもらいます。11月には妊娠が判明したといい、現在の心境も聞きました。

新天地・宮城を駆ける——18日に全日本実業団女子駅伝

16日から3回連載

トップランナーたちが美しく、激しく競う第31回全日本実業団女子駅伝競走大会(毎日新聞社共催)は18日午後零時10分スタートで、宮城県松島町から仙台市までの6区間42.195キロで行われます。昨年までの岐阜から会場を移して最初の大会。新コースには、東日本大震災の爪跡も残ります。被災地の人々への思いを込めたレースとなりそうです。運動面では、16日から3回の連載企画「新天地・宮城を駆ける」を掲載。困難の中で新コースを設定した人々、同県を本拠地とする日本ケミコンの選手たちの姿などを紹介します。また、17日の特集紙面には、大会の話題やコース図、選手名鑑を掲載する予定です。



年末恒例「今年の顔」

2011 ひと あなたがいた

夕刊1面 15日(木) ごろから7回連載



2011年も暮れようとしています。後世の史家が見て、今年は恐らくこの国の社会の転換期と特記することでしょう。そう、3月11日のあの悲劇のことです。でも、列島が悲しみに暮れるなかにあっても……いや、だからこそ、私たちに勇気をくれた人たちがいました。言葉で、笑顔で、寄り添ってくれるだけで……。そう、あなたがいたから——。

登場予定者は、プロ野球「楽天」選手の嶋基宏、タレントの芦田愛菜、詩人の和合亮一、歌手の由紀さおり、作家の、西村賢太、日本文学者のドナルド・キーン、なでしこジャパンの澤穂希の各氏です。

写真はもちろん、本紙カメラマンの特写。見て、読んで、あの感動をもう一度。

「支援」と「放射能の懸念」に揺れる自治体

被災地の「がれき」から見えた「日本の悲劇」

夕刊特集ワイド面 12日(月)

町内6500棟のうち3分の2が全壊した宮城県女川町。町内に山積みされたがれきの総量は44万トに達し、町の一般廃棄物の115年分にあたるそうです。

「復興のためにも、一日も早く除去してほしい」。被災地からはそんな悲鳴が聞こえてきます。そうしたなか、政府は全国の自治体に広域処理への協力を要請しています。ところが、自治体の多くは放射能汚染への懸念から及び腰のようです。でも、私たちは慎重な姿勢を見せる自治体を批判することができるのでしょうか……。被災地の救済と復興、そして支援の手を差しのべたいのに、ままたらない自治体のジレンマ……。被災地・東京の二元ルポを通して、原発事故がもたらした分断されゆく「日本の悲劇」を描きます。



「知りたいが分かる」がモットーの夕刊「特集ワイド」。どうぞご期待下さい。